

第二部

副籍交流の事例と 交流の充実に向けたアイデア

第二部では、副籍制度に基づく交流活動の充実を目指した事例やアイデアを紹介します。

各学校で交流の計画を立てる際の参考にしてください。

交流事例 1 新入生の早期からの交流開始に向けた取組

【事例の概要】 肢体不自由特別支援学校小学部 1 年 A さん

A さんの保護者は、小学部入学前からの A さんと地域の友達とのつながりを大切にしたいと考え、肢体不自由特別支援学校入学後できる限り早い時期から交流を開始することを希望していました。

A さんの保護者の希望を聞き取った特別支援学校と地域指定校の特別支援教育コーディネーターは、A さんが地域指定校の 5 月の運動会に参加する方法を検討し、A さんの保護者に提案しました。



【交流の成果】

本事例では、A さんが 1 学期に参加しやすい行事からの交流を実施したことで、地域指定校の児童に A さんの顔と名前を早く覚えてもらう機会となり、A さんも地域の友達の一人として知ってもらえました。

また、行事に参加した後も、地域指定校の児童との交流を続け、関わりを深めることができました。A さんの保護者からは、幼稚園でつながりのあった友達と小学校入学後も継続してつながりをもつことができ安心しましたとの感想がありました。

【経緯】

入学前（2月）	入学当初	4月
特別支援学校の入学準備説明会において、新入生、転入生の保護者に副籍制度の概要、交流開始までの流れを説明しました。 特別支援学校と地域指定校の管理職間で次年度の副籍交流の実施を確認しました。	A さんの担任は、A さんの保護者から、入学後できる限り早く交流を開始したいという希望を聞き取りました。 担任と特別支援教育コーディネーターで A さんが早期に参加できる交流内容を検討しました。	新年度になり管理職間で副籍担当者の連絡先を確認しました。 特別支援学校、地域指定校の特別支援教育コーディネーター間で、A さんが地域指定校の 5 月の運動会に参加すること、参加に向けた事前学習等の計画を確認しました。

【交流の充実につながったポイント】

4 月の早い時期に区市町村教育委員会から特別支援学校に、副籍をおく地域指定校の通知が届いたことで、早期に特別支援学校と地域指定校との打合せを実施し、運動会での交流を計画することができました。



5月上旬から中旬

特別支援学校の特別支援教育コーディネーターは、地域指定校の交流学級の 1 年生に、A さんとの副籍交流を行うことや、肢体不自由の障害に関する理解啓発の授業を実施しました。また、地域指定校では、A さんの顔写真入りの自己紹介カードを学級に掲示しました。

5月中旬

地域指定校の担任は、交流学級の児童に、運動会当日に A さんが来校し、みんなのことを応援することを伝えました。



5月下旬

運動会当日、A さんは、保護者観覧スペースで交流学級の友達を応援しました。

休憩時間には、交流学級の児童が、観覧スペースに来て、A さんと交流しました。



【交流の充実に向けたポイント】

地域指定校：年度当初の新入生歓迎会等の場で、特別支援学校で学ぶ児童・生徒がいることを地域指定校の児童・生徒に紹介し、同じ地域に暮らす友達であると伝える工夫もあります。

教育委員会：管理職連絡会等の場で副籍をおく児童・生徒が在籍していることを周知し、交流実施への協力を依頼することもポイントに挙げられます。

交流事例 2 オンラインを活用した交流の取組

【事例の概要】 肢体不自由特別支援学校中学部 1 年 B さん

担任は、B さんの保護者から、B さんの副籍交流の回数を増やしたいと考えているが、回数を増やすことで、地域指定校までの送迎の負担が大きくなることに悩んでいるということを聞き取りました。

そこで担任は、B さんの保護者に、朝の会や学級活動等についてはオンラインを活用して交流し、運動会や合唱祭などの学校行事への参加については、地域指定校を訪問して交流することを提案しました。

【交流の成果】

オンラインを活用した交流が実現し、交流の回数が増えたことで、B さんが地域指定校の学校行事での交流をより楽しみにする様子が見られました。B さんの保護者は、地域指定校との交流の回数が増えたことに加え、送迎の負担が軽減したことで、今後の交流の継続をより前向きに考えることができました。

また、オンラインを通じて、朝の会等での定期的な交流を実施することにより、地域指定校の生徒の B さんへの理解がより深まりました。

【経緯】

入学当初	4 月	5 月
4 月の個別面談で、担任は B さんの保護者から、交流回数を増やしたいが、地域指定校に訪問する際の B さんの送迎について負担感があり、悩んでいることを聞き取りました。	特別支援学校、地域指定校の特別支援教育コーディネーター間で、両校をオンラインで接続できることを確認し、オンラインで交流する授業や日程を打合せしました。	特別支援学校、地域指定校の担任間で、オンラインに使用するアプリケーションを確認し、事前の通信テストを実施しました。

6 月	7 月以降	
B さんは、学校や家庭において、地域指定校の友達に話すことを考えたり、オンライン上で発表の練習をしたりしました。	【オンライン交流の実施】 朝の会や学級活動の時間に、両校をオンラインでつなぎ、互いに学校生活や夏休み中の活動を報告し合いました。	【直接交流の実施】 オンラインでの交流のあと、地域指定校の運動会や合唱祭などの学校行事に参加し、さらに交流を深めました。

【交流の充実につながったポイント】



円滑なオンラインを活用した交流を実現するためには、事前に使用アプリケーションの確認や通信のテストが必要です。ICT 支援員等とも連携し、最適なオンライン環境を整えましょう。



18 ページの「オンラインを活用した交流開始に向けたアイデア」に具体的な方法を掲載しています。

【交流の充実に向けたポイント】

初めて地域指定校を訪問する児童・生徒にとっては、特別支援学校の少人数の学級とは違い、大人数の児童・生徒がいることに、緊張することもあります。このような場合、直接交流の前に、オンラインでの顔合せを短時間で行うことが有効です。

また、オンラインを活用して繰り返し交流することで、特別支援学校の児童・生徒、地域指定校の児童・生徒が互いの理解を深めることにつながります。



交流事例 3 連続性と発展性のある交流の取組

【事例の概要】 聴覚障害特別支援学校小学部 4 年 C さん

C さんは、聴覚障害特別支援学校の小学部に入学して以降、継続的に地域指定校と交流し、地域の友達との関係を深めてきました。

年度当初、C さんの担任と地域指定校の担任は、C さんが得意な図画工作の交流で制作した作品を、地域指定校の展覧会で発表し、より多くの地域指定校の児童や保護者、地域の人々に、C さんのことや、副籍交流を知ってもらうことを目標に交流を進めることを確認しました。

【交流の成果】

C さんの得意な図画工作で交流を計画したことで、C さんは交流の日を心待ちにする様子が見られました。

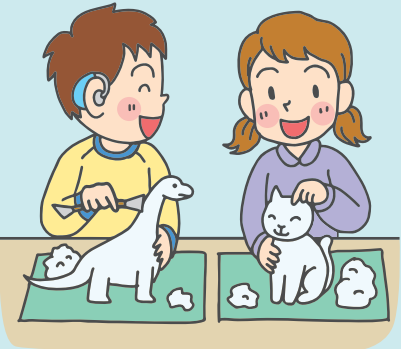
また、制作した作品を、地域指定校の展覧会に出品したことで、地域指定校の多くの保護者から「特別支援学校で学んでいるお子さんのことを初めて知りました。」などの感想をいただくなど、地域指定校の保護者の理解啓発にもつながりました。

【経緯】

前年度末	1 学期	2 学期
・ C さんと C さんの保護者、地域指定校と特別支援学校の特別支援教育コーディネーターで次年度の交流に向けた希望の確認、C さんが得意な図画工作の授業を中心に交流ができるよう、交流方法を検討しました。 ・ その後、特別支援教育コーディネーター間で来年度の行事計画を確認し、交流で制作した作品を地域指定校の展覧会に出展できる計画にすることを確認しました。	C さんは、地域指定校の図画工作の授業に参加し、地域指定校の児童と同じテーマで作品を制作しました。 時間内に作品が出来上がらなかった部分は、家庭に持ち帰って制作し、作品を完成させました。	C さんは、地域指定校の展覧会に作品を出品するとともに、地域指定校の児童と一緒に、作品を鑑賞しました。また、展覧会の会場に副籍交流を紹介するポスターを掲示し、地域指定校の保護者に、C さんがみんなと同じ地域で暮らす友達であることを紹介しました。

【交流の充実につながったポイント】

交流の計画段階で、一つ一つの交流活動につながりをもたせるとともに、交流で制作した作品等の成果を行事で発表することで、互いの児童・生徒がより親しくなり、交流が深まることにつながります。交流の成果を行事等で披露するためには、交流の計画段階で両校の年間行事計画を共有することがポイントになります。



【交流の充実に向けたポイント】

地域指定校の保護者が我が子の作品を鑑賞するために学校を訪問する際に、副籍交流の取組を自然な流れで知ることができる環境を設定することが有効です。合わせて、交流の様子を紹介するキャプションを付けるなどして、地域指定校の児童・生徒や保護者が副籍制度や障害への理解をより深める工夫も大切です。



交流事例 4 特別支援学級との交流から始める取組

【事例の概要】 知的障害特別支援学校中学部 2 年 D さん

D さんは、中学部から特別支援学校に入学しました。D さんの保護者は、中学部に入学後も、小学校時代からの地域の友達とのつながりを保つことを希望していましたが、地域の中学校の大きな集団で、D さんが交流できるか不安をもっていました。

そこで、特別支援学校、地域指定校が相談し、地域指定校に設置している特別支援学級の生徒との小集団での交流から開始し、安心感を得てから、通常の学級との交流に発展させていくことを計画しました。

【交流の成果】

D さんが安心して地域指定校の通常の学級との交流に参加できることを目指して、特別支援学級との交流から段階的に交流を計画したことで、D さんは、通常の学級の大きな集団の中でも、笑顔で交流に参加することができました。

また、地域指定校の通常の学級の生徒や教員は、D さんと直接交流する体験を通して、障害への理解が深まりました。

【経緯】

4 月	1 学期
個別面談時に、担任は D さんの保護者から、直接交流の希望はあるが、D さんが中学校の通常の学級の大きな集団での交流に楽しんで参加できるか不安があることを伺いました。	保護者からの不安を聞いた特別支援学校と地域指定校の特別支援教育コーディネーターは、特別支援学級の小集団との交流から開始することを計画しました。その後、D さんは特別支援学級の生徒とボッチャを通して交流をしました。

2 学期	3 学期
D さんは、地域指定校の文化祭で、特別支援学級の生徒と一緒に、通常の学級の生徒の発表活動を鑑賞しました。 鑑賞後、D さんは、特別支援学級の生徒、通常の学級の生徒と一緒に文化祭の見学をしました。	D さんは、特別支援学級の生徒と地域指定校のボランティア部の活動に参加し、通常の学級の生徒と一緒に清掃活動を行いました。 部活動参加後、D さんは、交流学級の体育の授業に参加し、通常の学級の生徒とボッチャなどのパラスポーツを楽しみました。

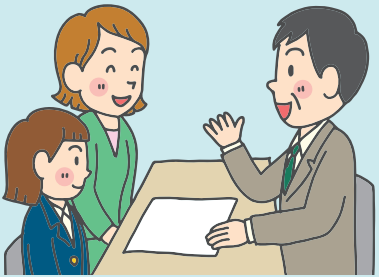
【交流の充実に向けたポイント】

副籍交流は、障害のない児童・生徒と障害のある児童・生徒との交流を目的としているため、居住している地域の小・中学校の通常の学級との交流が基本になります。

特別支援学級との交流から始める場合は、保護者と十分に副籍交流の目的を確認し、通常の学級との交流につなげることを前提に計画をしましょう。

【交流の充実につながったポイント】

交流後に、特別支援学校の特別支援教育コーディネーター、保護者等で交流の感想を共有し、次回の通常の学級との交流内容を検討しました。児童・生徒の状態を確認し、通常の学級との交流に向けて、段階的に交流を進めていくことが重要です。



アイデア1 交流開始に向けたアイデア

○ スモールステップで進める初めての交流

副籍交流の方法や内容をスモールステップで計画することにより、小学部低学年の児童等が初めての交流活動に安心して参加できるようになります。

(例 聴覚障害特別支援学校の児童)

○ 交流前の学校訪問

特別支援学校の児童が事前に地域指定校の朝の会を見学することで、学級の雰囲気や学校生活の様子を知ることができるようにしました。

○ 短時間からの交流

朝の会で、児童同士がプロフィールカードを活用して自己紹介し、理解を深め合いました。

特別支援学校の児童は、交流後に特別支援学校に登校し、担任の先生と交流の振り返りをしました。



【地域指定校の教員の感想】

- ・交流開始前の見学で、互いの児童の反応を見られるため、今後の関わりや支援の見通しをもつことができました。

【特別支援学校の保護者の感想】

- ・短時間からであれば、無理なく始められそうです。

こんにちは

わたしの名前



です。



〇〇（区・市）にある
〇〇特別支援学校 に

〒 番 地

ほく・わたしのずきなこ

区の
街（まち）から歩いて

（まち）の
丁目に住んでいます。
（まち）
分のところまで。

まち
町でみかけたら、声をかけてね！ どうぞよろしく！



【アイデアを実践した成果】

・短時間での交流は、実施に向けた準備が少ないこと、特別支援学校の保護者の時間的な面での負担が軽減されることから、交流を継続するための方策の一つとして有効です。また、交流後に特別支援学校に通学できることは、児童の学校生活のリズムが保たれるメリットもあります。

【交流の充実に向けたポイント】

児童同士が安心して交流できる方法として、「短い時間からの交流にする」「オンラインなどで事前に地域指定校の様子を知る」などの工夫を考えてみましょう。

アイデア 2 交流する本人や学校の情報発信

○ プロフィールカードの書式や掲示の工夫

特別支援学校の児童・生徒を紹介するプロフィールカードの書式や掲示の方法を工夫することにより、地域指定校の児童・生徒への障害理解につながります。

(例 知的障害特別支援学校の児童・生徒)

○ 本人や学校の情報定期的に発信

特別支援学校の児童・生徒の好きなことや授業の様子を、写真等を用いて新聞形式にまとめて、交流学級に掲示するとともに、定期的に新聞を更新することで、地域指定校の児童・生徒の興味・関心を惹き付けるよう、工夫をしました。

○ 受け渡しを通じた交流

定期的に更新する新聞を、特別支援学校の児童・生徒と保護者が、地域指定校に届けることで定期的な交流の機会につなげました。

【特別支援学校の保護者の感想】

- ・ 交流活動で初めて教室に入ったときに、お渡ししていた新聞を示しながら、子供たちが話しかけてくれて嬉しかったです。
- ・ 近所を歩いていると、地域指定校の子供たちが、新聞に書いた本人の好きなゲームについて質問してくれることがありました。



しんぶん

発行所 東京

○○特別支援学校 ○学部 ○年○組

●● ●● です。

みなさんと交流で会える日を楽しみにしています。



【好きなこと】

★絵を描くこと

★ダンスを踊ること

【授業の様子】



図画・算数



音楽



図画工作



体育

【アイデアを実践した成果】

- ・地域指定校の児童・生徒が、教室内に掲示したプロフィールカードをよく見ており、交流を楽しみにする様子が見られたとともに、特別支援学校の児童・生徒に対して、学級の一員としての仲間意識をもつことができました。

【交流の充実に向けたポイント】

地域指定校の担任がプロフィールカードに「〇〇さんの得意なことを紹介」などの、POPを付けることで、地域指定校の児童・生徒の興味を惹き付ける工夫も行ってみましょう。

アイデア3 オンラインを活用した交流開始に向けたアイデア

○ 円滑なオンライン交流に向けた対応

特別支援学校と地域指定校、教育委員会が連携し、通信環境を整備することでオンラインを活用した交流の円滑な実施につながります。

○ 教育委員会との連携

特別支援学校と地区の教育委員会で、都立の特別支援学校と公立の小・中学校（地域指定校）とが電子メールでやり取りをする際の、地域指定校が使用できるメールアドレスを確認しました。

また、通信環境の確認として、特別支援学校と地域指定校の両校において、特別支援学校のICTを担当する分掌の教員やICT支援員による支援を受けながら、オンライン活用した学校間の打合せに向けた接続のテストをしました。接続テストには、地区の教育委員会が立ち会い、特別支援学校と地域指定校との通信環境を一緒に確認しました。

○ オンライン活用のマニュアルを作成

特別支援学校担任用、地域指定校の小・中学校担任用、特別支援学校の児童・生徒の保護者用に、オンライン活用のマニュアルを作成しました。

マニュアルはこちらから



○ オンラインでの打合せ

マニュアルを活用して、直接交流に向けた学校間の打合せを行いました。

【地域指定校の教員の感想】

- ・ICT支援員のサポートやオンライン活用のマニュアルがあったおかげで、負担感なく通信環境を整えることができました。

【アイデアを実践した成果】

- ・事前に学校間の通信環境を確認し、マニュアルを準備したことで、交流の当日は、オンラインを活用した交流を円滑に実施することができました。

【交流の充実に向けたポイント】

オンラインでの打合せは、児童・生徒が、オンラインで交流する場所で、同じデジタル機器を使って実施することで、接続テストにもなり、オンラインを活用した円滑な交流につながります。

アイデア4 間接交流から直接交流へ（地域指定校のアイデア）

○ 地域指定校からの交流の提案

地域指定校から間接交流を希望する特別支援学校の児童・生徒と保護者に面談を提案したことにより、直接交流に発展しました。

○ 地域指定校による保護者との面談の提案

地域指定校の管理職から特別支援学校に、直接交流だけでなく、間接交流を希望する児童・生徒や保護者とも、直接会って話がしたいとの相談がありました。

特別支援学校から間接交流を希望する保護者に、地域指定校の意向を伝え、面談を実施することになりました。

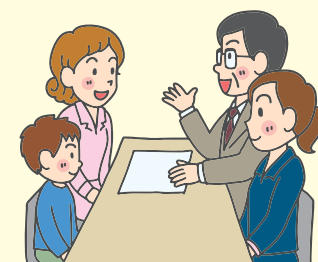
○ 地域指定校での面談の実施

特別支援学校の児童・生徒と保護者、地域指定校の管理職と特別支援教育コーディネーターで、面談をしました。

○ 校内見学の実施

面談のあと、地域指定校の特別支援教育コーディネーターから、特別支援学校の児童・生徒と保護者に、校内見学を提案しました。

特別支援学校の児童・生徒は、廊下から、交流学級の授業を参観し、地域指定校の学校生活に興味をもち、直接交流に対する期待を膨らましている様子でした。



【特別支援学校の保護者の感想】

- ・地域指定校の管理職から連絡があり、地域に受け入れられているとの思いをもつことができました。

【アイデアを実践した成果】

- ・面談後、地域指定校から特別支援学校の児童・生徒に地域指定校を会場として実施する子供祭りなどへの参加の呼びかけがあり、直接交流の発展につながりました。

【交流の充実に向けたポイント】

地域指定校の管理職から間接交流を希望する保護者への面談の提案は、特別支援学校の保護者が安心して地域指定校を訪問することにつながります。

アイデア5 地域指定校への障害理解啓発

○ 障害に対する理解啓発のための授業の実施

地域指定校での障害に対する理解啓発のための授業を年間の指導計画に位置付け、計画的に指導していくことは地域指定校における障害理解が深まることにつながります。また、理解啓発のための授業では、特別支援学校の児童・生徒が実際に学んでいる様子を具体的に示すことで、地域指定校の児童・生徒の障害理解がより深まります。

(例 視覚障害特別支援学校の児童)

○ 体験を通して、障害の理解を深める

盲学校に通う児童の障害に対する理解啓発のための授業では、「点字盤を使用して点字を書く体験」「簡単な点字の単語の読み取り」を通して、地域指定校の児童が体験的に点字を学べるようにしました。

特別支援学校の児童・生徒によっては、地域指定校の児童・生徒に直接、点字を紹介することも、理解啓発を促す手段の一つになります。

○ できることを具体的に示す

理解啓発のための授業では、盲学校の児童の作文の紹介や、教科書を読んで学習している様子の動画を見せるなど、具体的な学習の様子を知らせ、地域指定校の児童の障害への理解を促しました。

【地域指定校の児童の感想】

- ・盲学校の児童が点字の本をすらすら読んでいるのを見て、すごいと思いました。
- ・自分とは違う勉強の仕方だけど、勉強している内容は同じなのだと知ることができました。

【アイデアを実践した成果】

- ・交流当日、地域指定校の児童が、特別支援学校の児童の得意なことについて質問する場面が多く見られ、交流する児童への関心を高めていました。

【交流の充実に向けたポイント】

- ・聴覚障害特別支援学校の場合、児童・生徒が、地域指定校で手話を披露するなどの理解啓発の取組も有効です。
- ・理解啓発授業の指導案や教材などをフォーマット化することで、特別支援教育コーディネーター以外の教員でも理解啓発授業を担当できるようになります。校内で資料を共有できるようにするなど、学校の実情に応じた工夫が大切です。

アイデア6 地域への障害理解啓発、推進

○ 主任児童委員[※]との連携

- ・特別支援学校から主任児童委員に直接交流の際の同行を依頼し、主任児童委員に特別支援学校の児童・生徒及び保護者のことを知ってもらうことで、地域との関わりが強まります。

※ 主任児童委員

厚生労働大臣から委嘱される「民生委員」（「児童委員」を兼ねる）の中から指名され、児童福祉に関することを専門的に担当し、地域の子供たちが健やかに安心して生活できるよう活動している方々です。

○ 学校から委員への依頼

特別支援学校の特別支援教育コーディネーターが、民生委員・児童委員の会議に出席し、副籍制度の説明を行い、主任児童委員に直接交流の際の同行を依頼しました。

○ 特別支援学校や障害のある児童・生徒に関する理解啓発

主任児童委員を対象に、副籍交流の報告会も兼ねた特別支援学校の見学会を設定しました。

○ 交流への同行

特別支援学校の児童・生徒や保護者が地域指定校の行事に参加する際の必要な調整を、特別支援学校の教員が行いました。直接交流当日に主任児童委員のサポートがあることで、特別支援学校の児童・生徒と保護者が、安心して地域指定校の行事に参加することができました。

【主任児童委員の声】

- ・地域に住む特別支援学校の児童・生徒の存在を把握でき、また、特別支援学校に通う児童・生徒や保護者に、居住の地域に主任児童委員がいることを知ってもらうことができました。地域で対応できることはすぐにお手伝いしたいと思います。

【アイデアを実践した成果】

- ・主任児童委員が直接交流に同行した際に、地域の情報を特別支援学校の保護者に伝えたことで、特別支援学校の児童・生徒が、地域指定校での交流活動のほか、地域の行事にも参加する契機となりました。

【交流の充実に向けたポイント】

主任児童委員が、交流以外の地域生活でも特別支援学校の児童・生徒を気にかけてくれることで、児童・生徒や保護者が地域の一員であることの実感を深めることにつながります。

アイデア7 児童・生徒の興味・関心を生かした交流

○ 児童・生徒の興味・関心を活かした交流

特別支援学校の児童・生徒が興味をもっている読書活動を通して地域指定校の児童・生徒と交流したことをきっかけに、特別支援学校の児童・生徒の興味・関心が更に広がりました。

(例 肢体不自由特別支援学校の児童)

○ 交流の計画

地域指定校の担任は、直接交流を希望する特別支援学校の児童が読書好きなことを知り、地域指定校の児童同士が互いに本を紹介する授業に、特別支援学校の児童が参加できるように計画しました。

○ 交流の様子

交流当日は、図書室で好きな本を読んだり、グループで「オススメの本」の内容を伝え合ったりしました。特別支援学校の児童も、地域指定校の児童に在籍校の行事で発表する劇の本を紹介しました。



【特別支援学校の保護者の感想】

- ・ 交流後、地域指定校の児童が、特別支援学校のスクールバスに乗車する児童を見付け、手を振る姿を見て、とても嬉しく思いました。

【アイデアを実践した成果】

- ・ 特別支援学校の児童は、地域指定校の児童が紹介した図鑑に興味をもつようになり、在籍する特別支援学校においても、自分から担任に「図鑑を読んでほしい」と伝える姿が見られるようになりました。

【交流の充実に向けたポイント】

交流後、地域指定校の児童から特別支援学校の児童に、手紙で好きな本を紹介したり、特別支援学校の児童から地域指定校の児童に、手紙で劇の発表が成功したことを伝えたりするなどして、交流後も読書を通してつながりを持ちました。